

レアリア学習からみた外国語学習語彙の研究¹⁾

堤 正 典 ・ 小 林 潔

1. はじめに

これまでのロシア語のレアリア（文化的背景などの知識）の教育について研究する過程において、学習語彙の見直しをすることの必要性が浮かび上がり、この共同研究では、ロシア語の学習語彙を再検討することとした。ロシア教育科学省認定ロシア語試験（ТРКИ）の学習語彙を基盤とするが、それは主としてロシアへの留学生が必要とする語彙を中心としているので、日本人がロシア語を使用するその他の様々な場面を想定して、ТРКИ学習語彙に含まれない必要な語彙の洗い出しを行い、学習語彙リストの改訂を目標とした。また、ТРКИ学習語彙リストには多義語が含まれ、日本語との対応が複雑な語も少なくはない。例えば、ロシア語の жизнь（生命、人生、生活…）は英語では life、フランス語では vie というように一語で対応するが、日本語に対してはそうではない。学習語彙の多義性に注目し、日本語を母語とする学習者（日本人学習者）のために日本語との対照分析を行う必要がある。

学習語彙の再検討では、ロシアにおけるビジネスの場面、来日したロシア人のアテンドの場面なども想定されるが、ロシアの外国人労働者に求められる言語能力や文化・歴史・制度の知識が、ロシア政府による「外国人労働者向けロシア語・ロシア史・ロシア法試験」で示されており、日本人学習者にとってもレアリア知識として知っていることが望ましいものであるため、まずはこの分析を行った。また、日本におけるロシア継承語教育は近年しばしば話題になっており、この分野の実践が進んでいるドイツの例を参考にするための調査を行っている。

語の多義分析は、多義ネットワーク分析の手法を用いる。これは語の多義性展開が中心義からメタファー・メトニミー・シネクドキによるものとする分析手法である。ロシア語の分析はいくつかの語による試行的段階に留まったが、それにより本格的な分析の準備はできている。今後の研究継続で、最重要語から始め、分析の語数を拡大していく。

これらの研究に付随して、レアリア研究の一環としてロシア語の文字の歴史等をまとめた著作を小林が完成させた、また、多義ネットワーク分析をロシア語文法に適用する試みとして堤が論文を執筆している。

なお、小林が関わった関連の研究としてハイネ (2017) と Лаптева, Кобаяси [ラプチェワ・小林] (2019) がある。本研究に関連するものとして言及しておく。

前者は、語の多義性は語の文法化（語が本来の具体的な語義を示すものから文法的機能を果たすものに変化すること）にもつながるが、文法化に関する基本書の翻訳企画に小林が関わったものである。

また後者は、ロシア語には Япония (日本) を含んだ慣用句が存在する。俗語であり、使用も望ましいものではないが、日本人ロシア語学習者が知っておいても良いものである。これらの慣用句は日本との関係あるいは日本の文化・歴史と直接関わるものではなく、似た音のロシア語単語との連想で登場したものであった。

本報告では、小林 (2017a) によるレアリア知識と言語学習の分析についてと、堤 (2019) による語の多義語分析について以下でやや詳しく述べる。

2. 外国人労働者向け総合試験『ロシア史』モジュールの分析について

ロシア連邦で実施されている「労働許可・パテント取得希望の外国人のためのロシア語・ロシア史・ロシア法基礎総合試験 Комплексный экзамен по русскому языку как иностранному, истории России и основам законодательства Российской Федерации. Для иностранных граждан, оформляющих разрешение на работу или патент」は「ロシア語」「ロシア史」「ロシア法基礎」の3つのモジュールからなるが、特に「ロシア史」を取り上げた。このような公的な試験での「ロシア史」は、ロシア側が非ロシア人にどのようなロシア史知識を求めているかを示しているもので、ロシア国家の史観の現れである。ロシア出身者とのロシア語コミュニケーションの上で有効な知識であるし、ロシアの国としての自己認識の現れである

から学習者の対ロシア観の形成にも無視できないファクターである。

本考察では、試験内容について概略を紹介し、日本の学生との距離をはかりつつ日本のロシア語教育に関わる問題を指摘した。

まず内容であるが、「ロシア史」モジュールの想定学習時間は36時間、週1コマ半期分以上の分量である。語彙は「ロシア語」モジュール950-1000単位（およそ語に相当）に加え、更に辞書使用可として500単位。試験目的としては、新しい状況への適応、文化・宗教の価値の認識、歴史における文化の多様性の認識、ロシアでの自己の位置と社会施設・宗教施設との関わりの自覚、ロシアで受け入れられている史実の寛容的解釈、の5つが挙げられている。具体的には4部10テーマである。

第1部が9-17世紀、建国からキリスト教受容、いわゆるタタールのくびきとその解放、ロマノフ朝の成立まで。

第2部が18-20世紀初頭で、ロシア帝国の成立と近代化、外国との戦争、ロシア革命、その中での文学・音楽・学術。

第3部は20世紀ソ連の歴史で、ソ連の成立から工業・農業政策、第2次世界大戦、宇宙開発、ソ連解体。

第4部は現代で、ロシアの主権国家宣言から市場経済化、クリミア問題やソチ五輪。

以上のほか、重要な出来事の年表や人名、祝祭日、視聴推薦歴史映画リストも提供されている。

次に、試験内容と日本のロシア語学習者との距離であるが、実際に日本人ロシア語学習者に事項の知識を問うて結果を集計・分析した。これにより、特に第2次世界大戦前のソ連について知識が少なく、歴史的所産としての現代ロシアの他民族性に関心が薄いことが分かった。例えば、第1次5カ年計画の正答率は17.6パーセント、民族組成上のロシア連邦の性格についての正答率は47.1パーセントであった。

上記を踏まえ、ロシア語教育に関わる問題を指摘した。試験はロシアの現政権が推し進める政策——ロシア語とロシア文化をロシア国の共通の文化コードとして多民族融和を図ろうとする——の反映と言える。こうした政策は自ずとロシア語教育・学習に関わるものである。また、日本で用いられているロシア語教材およびいわゆるロシア学講義での教科書での扱いを見てみると、この試験で示され非ロシア人も知っているべきとされる事項のうち、日本のロシア語教材でも取り上げられず、ロシア語学習あるい

はロシアに関する講義科目等で扱われていないものがあった。語彙レベルでも日本の露和辞典に掲載されていないものがある（「農奴制」など）。ロシア側が重要視しているが日本人学習者にはさほど知られていない事項があるということで、これらは今後の教育実践、教材製作で考慮するに値する。

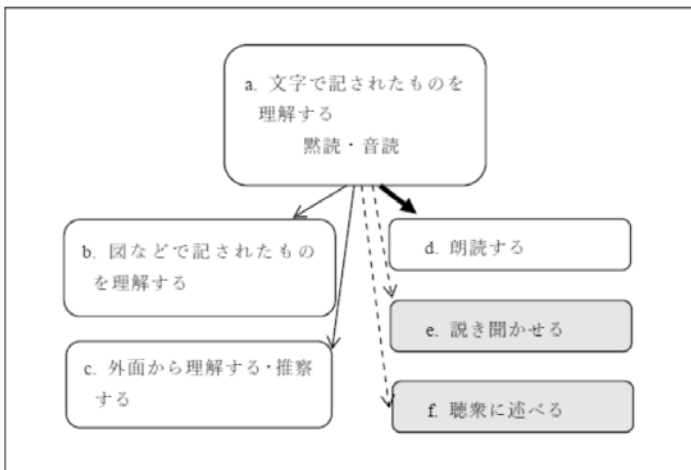
3. 多義語分析について

多くの語は多義である。多義性の展開はメタファー・メトニミー・シネクドキによって起こる。語の多義性を中心義（core meaning）からの展開として示すために、「放射状カテゴリー radial category」による分析を行う²⁾。

多義性の展開は、言語によって異なることが当然あり、ロシア語学習者（および教師）はそれを把握する必要がある。多義性の展開の異なりは、語のコロケーションの異なりに関連する。ロシア語の читать（中心義：読む）はコロケーションとして лекцию（講義を）と結びつき、「講演・講義をする」という意味を表すが、日本語にはその意味ではコロケーションは成り立たない。

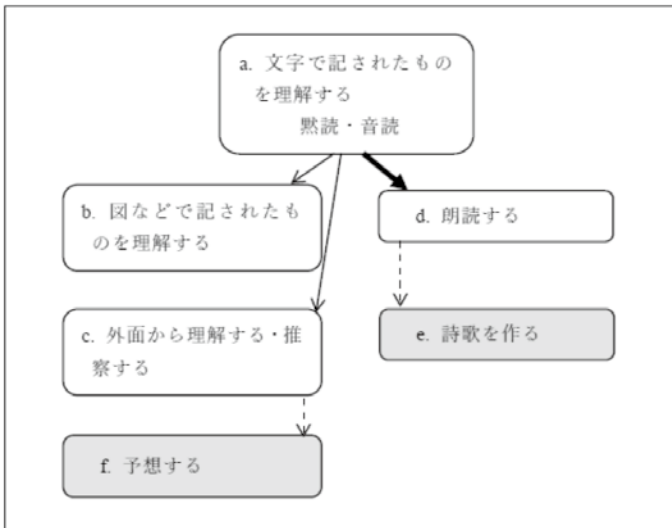
そこで、学習者（あるいは教師）にその異なりを示すために、双方の言語の分析を対照する³⁾。

(1) читать の多義ネットワーク



- (2) a. 文字で記されたものを理解する〔黙読・音読〕 【core meaning】
 читать книгу (本を読む)
- b. 図などで記されたものを理解する 【metaphor】 (→)
 читать географические карты (地図を読む)
- c. 外面から理解する・推察する 【metaphor】 (→)
 читать настроения по лицам (顔色を読む)
- d. 朗読する 【synecdoche】 (→)
 читать стихи с эстрады (壇上で詩を朗読する／読む)
- e. 説き聞かせる 【metonymy】 (- - - →)
 читать нотации (教訓を垂れる)
- f. 聴衆に述べる 【metonymy】 (- - - →)
 читать лекцию (講義を行う)

(3) 「読む」の多義ネットワーク



- (4) a. 文字で記されたものを理解する (黙読・音読)⁴⁾ 【core meaning】
 本を読む (читать книгу)
- b. 図などで記されたものを理解する 【metaphor】 (→)
 地図を読む (читать географические карты)
- c. 外面から理解する・推察する 【metaphor】 (→)
 顔色を読む (читать настроения по лицам)
- d. 朗読する 【synecdoche】 (→)
 壇上で詩を読む (читать стихи с эстрады)
- e. 詩歌を作る 【metonymy】 (- - - →)
 俳句を読む (сочинять/*читать хайку)
- f. 予想する 【metonymy】 (- - - →)
 (предвидеть, предполагать, оценивать)
 相手の出方を読む

(1) と (3) のそれぞれのネットワーク図において、多義語であるそれぞれの語の中心義と派生義の関係が示され、それらの派生関係が明らかになる。

網掛けのない中心義・派生義で用いられる場合は、双方の言語で対応があることを示している。これらの意味用法では直訳が可能である。なお、双方の多義ネットワーク図から派生の発想でも類似点があることが示される。

一方、網掛けをした派生義は双方で対応がないものである。これらの意義で用いられる場合、目的語等を付けたコロケーションに対応がないということになる。すなわち、日本語とロシア語で直訳ができないことになる。

このような多義ネットワーク図による比較は、コロケーションの問題のみならず、学習者にとって、あるいは教員にとって有用である。学習者は多義語の派生関係を明瞭にとらえることができる。また、教員は教材作成のための参考資料として利用することができる⁵⁾。

4. まとめにかえて

以上、本研究の中心的な成果である小林 (2017a) と堤 (2019) について概要を示した。

ロシア社会は他の国・地域と同様に、外国人労働者の流入、あるいは電子化やキャッシュレス化などに代表されるように、日々変化が進み、それに伴いロシア語の語彙における重要性・必要性にも変化が起こる。しかし、それにもかかわらず、変化が起こりにくい部分もある。小林 (2017a) はロシアの社会変容に伴う政策の変化に対応した研究という面をもち、一方、堤 (2019) は変化が起こりにくい部分の研究と言えよう。

このような状況を見据えながら、2019年度からの新たなプロジェクトにおいてロシア語学習語彙の研究のさらなる深化をはかりたいと考える。

謝辞

2016年度の本共同研究立ち上げ時に参加していただいた西野清治氏に感謝の意を表す。

【注】

- 1) 本報告は神奈川大学言語研究センターの共同研究グループのものとして行うが、實際上この研究については以下の助成も部分的に含まれている。
 - ・2015-17年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）（一般）、課題番号15K02759、研究課題名：ロシア語教育における基礎語彙コロケーションの研究、研究代表者：秋山真一・上智大学）
 - ・2017年度神奈川大学言語研究センター出版助成金
 - ・2018年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）（一般）、課題番号18K00799、研究課題名：ロシア語教育の実用性向上のための学習語彙の総合的研究、研究代表者：堤正典・神奈川大学）
 - ・2018年度神奈川大学国際交流事業
- 2) 同様の分析を行った英語や日本語の辞書に瀬戸・他(2007)、荒川(2011)、今井(2011)、森(2012)がある。
- 3) コロケーションにおいては、下に示すような文法的な問題もあるが、本研究で取りあげるのは語彙的な結合に限定した。下の例では、ロシア語では動詞 *помогать*（手伝う）で *мама*（ママ）が与格となるが、日本語の「手伝う」ではロシア語の与格が通例対応する二格を取らない。

(i) <i>помогать</i>	<i>маме</i>
<i>help</i> : INF	<i>مامа</i> : DAT
ママを /* に手伝う	
- 4) (3a) あるいは (4a) で、コロケーションとして「～を」に入る名詞句は「文字で記されたもの」ということになるが、これについてもプロトタイプを示している。したがって、メトニミーとして「文字で記されたもの」を意味する「チェーホフ」(=

チェーホフの作品)が用いることができる。また、「漫画」は多くの場合、絵だけでなく、文字も含んでいるが、たとえ文字がなく、絵だけだとしても「漫画を読む」と言える。これは「漫画」のカテゴリーに何が属すのかの問題であり、プロトタイプから離れた周辺のなものでも、「漫画」であれば「読む」と結びつくことになる。このようなことは、当然ロシア語においても起こっている。

- 5) 外国語学習の参考資料にするためには、多義ネットワーク分析の対象となる語も、それに共起シコロケーションを形成する語も、学習語彙であることが望ましい。学習語彙は学習者の習熟度レベルによって異なるわけだが、本論の分析例では特に習熟度レベルについて考慮していない。

成果物一覧 (刊行年順)

- 小林潔 2016『ロシア文字への旅』スラヴァ書房 全108頁
 堤正典 2017「ロシア語動詞アスペクトにおける『個別の意味』と多義ネットワーク」『神奈川大学言語研究』39 (神奈川大学言語研究センター) 21-40頁
 小林潔 2017a「ロシア語を継承するこころみ」『ユーラシア研究』57 (ユーラシア研究所) 45-48頁
 小林潔 2017b「外国人労働者向け総合試験『ロシア史』モジュールが求めるところ」『ロシア語教育研究』8 (日本ロシア語教育研究会) 33-42頁
 堤正典 (編) 2018a『ロシア語学とロシア語教育の諸相』ひつじ書房 全256頁
 堤正典 2018b「ロシア語教育におけるコケーションと多義性に関する覚書」秋山真一 (編)『ロシア語学と言語教育 VI ロシア語教育における基礎語彙コロケーションの研究』上智大学 5-15頁
 堤正典 2019「語の多義性とコロケーション」堤正典 (編)『言語教育におけるコロケーション — ロシア語と日本語 — 報告論集』神奈川大学 61-73頁

参考文献 (成果物以外)

- 荒川洋平 (編) 2011『日本語多義語学習辞典 名詞編』アルク
 今井新悟 (編) 2011『日本語多義語学習辞典 形容詞・副詞編』アルク
 瀬戸賢一・他 (編) 2007『英語多義ネットワーク辞典』小学館
 ハイネ, ベルト 2017 宮下博幸監訳『ことばはなぜ今のような姿をしているのか — 文法の認知的基盤 —』関西学院大学出版会 [小林 第6章「比較」151-181頁を担当 (全286頁)]
 森山新 (編) 2012『日本語多義語学習辞典 動詞編』アルク
 Лаптева М.Л., Кобаяси Киёси. 2019 «Фразеологические коммуникативы с компонентом «японский»: лингвокультурный аспект» // *Актуальные проблемы филологии и лингводидактики в современном обществе. Сборник материалов конференции, посвященной 85-летию профессора Э.В. Копыловой.* / Под ред. З.Р. Аглеевой, Л.Ю. Касьяновой, М.Л. Лаптевой. — Астрахань: Издатель: Сорокин Роман Васильевич, июнь 2019. — С.126-129. [ラブチェワ・マリヤ、小林潔 2019『『日本』を含んだ

ロシア語慣用表現のコミュニケーション上の特徴と言語文化的側面」『現代社会の言語学・言語教育学の諸問題』アストラハン、126-129 頁]